

資料名 「泣いた赤おに」 (光村図書4年 p60 「友情、信頼」友を思いやって、光文3年 p68、「主として人との関わりに関すること」友情、信頼、学研未来 4年 p48 「主として人との関わりに関すること」「友情、信頼」)

1. 本教材について

本教材は人間関係に関連してさまざまに読み解かれてきた話で、友人同士のうち一人が「ヒール」(悪役)になってまわりの人たちとうまく付き合っていくという内容である。「ともだちを大切にすることはどういうことか」、「あおおには本当の友だちなのか」「あかおには？」などたくさんの問題を考える素材になると思う。この話しの前提には人間の、鬼に対する誤解があるのだが、その誤解についてもどうして生じたのかを考えてみたい。光村図書は中学校2年でも同じ話を登場させている。4年の歳月を経てどのような変化があったのかも興味深い。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

光村教科書該当箇所の冒頭にある「友だちを大切にすることってどういうことかな」という問を考えていく素材にしたいと考えた。この問は「開かれた問い」なのでできるだけ幅広く検討したい。きれいな事で終わらせない工夫が必要である。

3. 補足的に使った資料

なし

4. 指導過程(2時間程度の計画)

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	「鬼」が出てくる話をいくつか紹介して鬼についてどんなイメージを持っているか聞く。お話を朗読する。	子どもに読んでもらっても良い。
展開	5人くらいのグループに分ける。 ①グループで感想を話し合う。 ②グループで寸劇を作る 設定は次の通り a.1年後青鬼が帰ってくる 赤鬼は青鬼のことなど忘れて人間と楽しい日を送っている。 b.配役 青鬼、赤鬼、人間(3人) 進行役は特に決めず皆で相談しながらすすめる ③すべてのグループが寸劇を演じる(5分)演じ終わったら劇の解説をする。 全体で質疑応答	設定はクラスの実態を考えて変えてもよい。たとえば1年後という設定だけであとは自由とか、最初からまったく自由で子どもに任せても良い。
まとめ	教師としての感想を述べる。	できれば全ての班に寸劇に触れると良い。

参考資料 なし